

第 5 回：単回帰分析

【教科書第 5 章第 1 節～第 2 節，第 4 節】

北村 友宏

2025 年 10 月 28 日

本日の内容

1. 単回帰モデル
2. 通常 of 最小二乗法 (OLS)

統計学と計量経済学での変数の表記の違い

- ▶ 統計学では確率変数を大文字で，実現値を小文字で表す.



- ▶ 計量経済学では確率変数と実現値を区別せず，行列を大文字で，ベクトルとスカラーを小文字で表す.

単回帰モデル

大きさ n の 2 変量データ

$((y_1, x_1), (y_2, x_2), \dots, (y_n, x_n))$ を用いて,

$$y_i = \beta_0 + \beta_1 x_i + u_i,$$

$$E(u_i \mid x_i) = 0,$$

$$E(u_i u_j \mid x_i) = 0 \quad (i \neq j),$$

$$V(u_i \mid x_i) = \sigma^2,$$

$$i = 1, 2, \dots, n$$

を推定することを考える.

これを推定すれば, 2 つの変数間の関係 (x_i が増加すると y_i はどの程度変化する傾向があるか?) を定量的に検証できる.

$E(u_i | x_i) = 0$ の仮定より,

$$E(y_i | x_i) = \beta_0 + \beta_1 x_i.$$

⇒ これは x_i が与えられたときの y_i の条件付き期待値.

- ▶ $E(y_i | x_i)$ を求めることを, y_i を x_i に回帰する (regress) という.
- ▶ $E(y_i | x_i)$ を与える式を回帰モデル (regression model) という.
- ▶ x_i の 1 次式で表される回帰モデルを線形回帰モデル (linear regression model) という.
- ▶ 定数項以外の説明変数が 1 つである回帰モデルを単回帰モデル (simple regression model) という.

- ▶ 説明される側の変数を被説明変数 (explained variable) という.
 - ▶ 従属変数 (dependent variable) ともいう.
- ▶ 説明する側の変数を説明変数 (explanatory variable) という.
 - ▶ 独立変数 (independent variable) ともいう.
- ▶ 回帰モデルにおける係数を回帰係数 (regression coefficient) という.
- ▶ 個体や時点に依存せず、説明変数にも依存しない項を定数項 (constant term) という.
- ▶ $u_i = y_i - E(y_i | x_i)$ を誤差項 (error term) という.
 - ▶ 攪乱項 (disturbance term) ともいう.

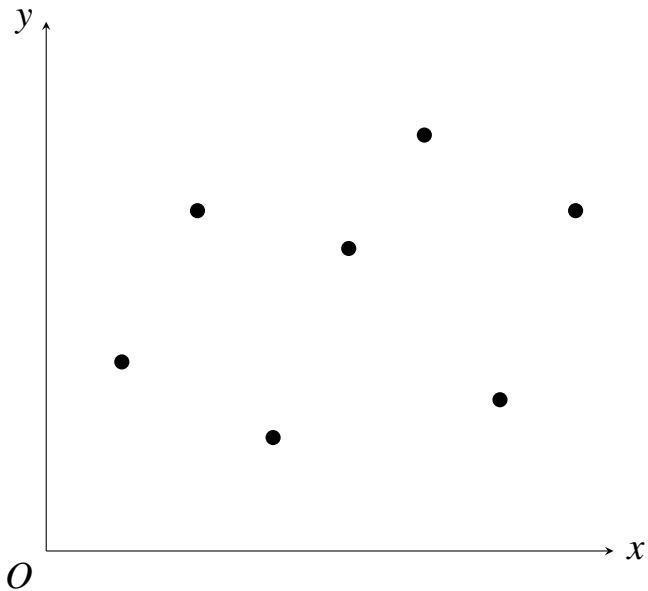
$y_i = \beta_0 + \beta_1 x_i + u_i$ において,

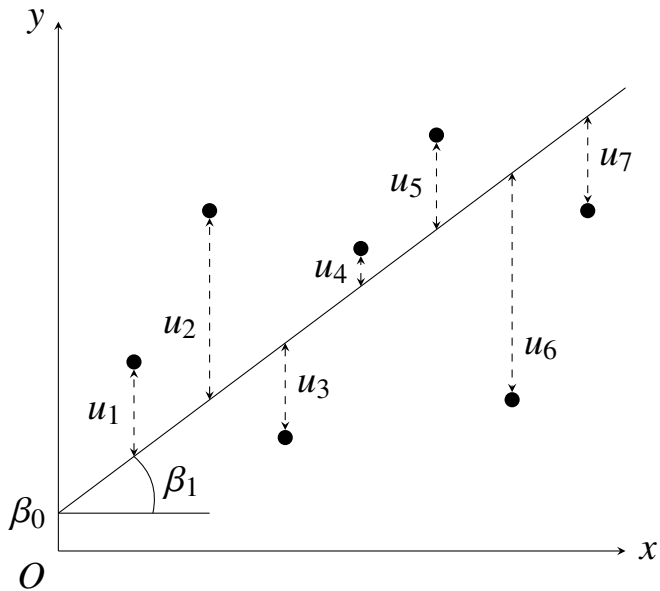
- ▶ y_i : 被説明変数
 - ▶ e.g., 年収
- ▶ x_i : 説明変数
 - ▶ e.g., 修学年数
- ▶ β_0, β_1 : 回帰係数
 - ▶ 特に, β_0 は定数項.
- ▶ u_i : 誤差項

説明変数 x_i は確率的 (stochastic) とする.



β_0 と β_1 を求める (推定する) には?





モデルを

$$y_i = \hat{\beta}_0 + \hat{\beta}_1 x_i + e_i$$

と書き換える.

- ▶ 誤差項の推定値を**残差 (residual)** という.
- ▶ e_i : 残差
 - ▶ 誤差項 u_i とは別物.

そして, 残差二乗和

$$\sum_{i=1}^n e_i^2 = \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)^2$$

が最小になるような $\hat{\beta}_0$ と $\hat{\beta}_1$ を求める.

- ▶ 残差二乗和 $\sum_{i=1}^n e_i^2$ が最小になるように回帰係数を求める方法を**通常最小二乗法 (Ordinary Least Squares, OLS)** という.

- ▶ OLS によって推定される統計量を **OLS 推定量** (OLS estimator) といい, その実現値を **OLS 推定値** (OLS estimate) という.

この場合の OLS 推定量は,

$$\begin{aligned}\hat{\beta}_0 &= \bar{y} - \hat{\beta}_1 \bar{x}, \\ \hat{\beta}_1 &= \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}.\end{aligned}$$

- ▶ $\bar{y} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i, \bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i.$

(導出方法は付録参照)

OLS 推定における仮定（単回帰の場合）

- ▶ 「説明変数を所与とした誤差項の条件付き期待値」と、「誤差項の条件なし期待値」が等しく、その値は 0.
 - ▶ $E(u_i \mid x_i) = E(u_i) = 0.$
- ⇒ 説明変数と誤差項は平均独立で、誤差項の期待値は 0.
- ▶ 説明変数を所与として、誤差項の条件付き分散は一定で、異なる個体の誤差項同士は無相関.
 - ▶ $V(u_i \mid x_i) = \sigma^2.$
 - ▶ $E(u_i u_j \mid x_i) = 0 \quad (i \neq j).$
- ▶ 説明変数を所与として、誤差項は正規分布に従う.
 - ▶ $u_i \mid x_i \sim N(0, \sigma^2).$

実証分析例：ミンサー方程式の推定

「修学年数が増えると、年収がどれだけ増えるのか」を分析するためのモデル（ミンサー方程式）

$$income_i = \beta_0 + \beta_1 yeduc_i + u_i$$

- ▶ $income_i$: 年収（万円）
- ▶ $yeduc_i$: 修学年数（年）
- ▶ i : 個人番号

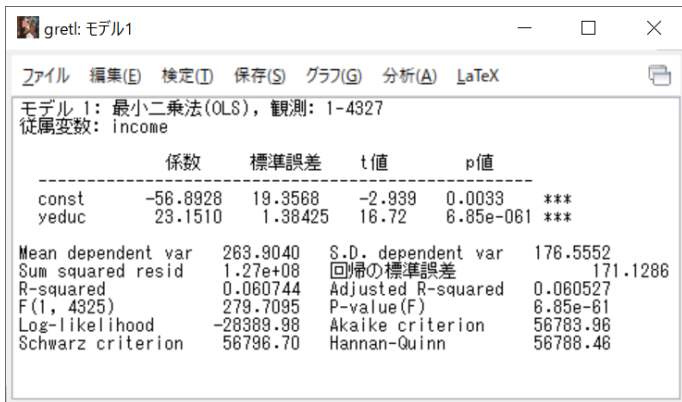
を推定する.

➡ 「年収」を「修学年数」に回帰する.

- ▶ 対数変換していないものをレベル (level) という.
- ▶ 被説明変数と説明変数がともにレベルであるモデルを「レベル＝レベル・モデル」ということがある.

➡ 前スライドのモデルは，被説明変数も説明変数も対数変換していないため，「レベル＝レベル・モデル」である.

レベル＝レベル・モデル推定結果



gretl: モデル1

ファイル 編集(E) 検定(D) 保存(S) グラフ(G) 分析(A) LaTeX

モデル 1: 最小二乗法(OLS), 観測: 1-4327
従属変数: income

	係数	標準誤差	t値	p値	
const	-56.8928	19.3568	-2.939	0.0033	***
yeduc	23.1510	1.38425	16.72	6.85e-061	***
Mean dependent var	263.9040	S.D. dependent var	176.5552		
Sum squared resid	1.27e+08	回帰の標準誤差	171.1286		
R-squared	0.060744	Adjusted R-squared	0.060527		
F(1, 4325)	279.7095	P-value(F)	6.85e-61		
Log-likelihood	-28389.98	Akaike criterion	56783.96		
Schwarz criterion	56796.70	Hannan-Quinn	56788.46		

出力結果の見方

- ▶ 係数: 回帰係数推定値
- ▶ 標準誤差: 回帰係数の標準誤差
 - ▶ 第 8 回授業で説明
- ▶ t 値: 「回帰係数が 0」という帰無仮説の両側 t 検定における検定統計値 (t 値)
 - ▶ 第 8 回授業で説明
- ▶ p 値: 両側 p 値
 - ▶ 第 8 回授業で説明
- ▶ 回帰の標準誤差: 誤差項の標準偏差の推定値
- ▶ R-squared: 決定係数

誤差項の分散の推定

定数項のある単回帰モデルの場合，誤差項 u_i の（条件付き）分散

$$V(u_i \mid x_i) = \sigma^2,$$

は，以下のように推定できる．

▶ 誤差項の分散の推定量：

$$s^2 = \frac{\sum_{i=1}^n e_i^2}{n - 2}.$$

この s^2 は不偏性をもつ，すなわち $E(s^2) = \sigma^2$ となることが知られている．（証明は省略）

誤差項の標準偏差の推定

定数項のある単回帰モデルの場合，誤差項 u_i の（条件付き）標準偏差 σ は，以下のように推定できる．

- ▶ 標準偏差の推定値を標準誤差（standard error）という．
- ▶ 誤差項の標準偏差の推定量：

$$s = \sqrt{\frac{\sum_{i=1}^n e_i^2}{n-2}}.$$

この式の n と e_1, e_2, \dots, e_n に具体的な値を代入すれば，誤差項の標準偏差の推定値（誤差項の標準誤差）を計算できる．

決定係数

決定係数 (R-squared) は,

$$R^2 = \frac{\sum_{i=1}^n (\hat{y}_i - \bar{y})^2}{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2} = 1 - \frac{\sum_{i=1}^n e_i^2}{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2}.$$

- ▶ 定数項ありの単回帰の場合, $\hat{y}_i = \hat{\beta}_0 + \hat{\beta}_1 x_i$.
 - ▶ **意味** モデルの当てはまりの良さ (説明変数で, 被説明変数の動きのうち, どの程度の割合を説明できているか)
 - ▶ $0 \leq R^2 \leq 1$.
 - ▶ $R^2 = 0$: 全く説明できていない.
 - ▶ $R^2 = 1$: 完全に説明できている.
- $\Rightarrow R^2 = 0$ や $R^2 = 1$ になることは, 実際の実証分析ではまず起こり得ない.

モデル推定結果

- ▶ 修学年数の係数

- ▶ 23.151（符号は正）

- ➡ 修学年数が1年長くなると、年収が平均して23.151万円（231,510円）高くなる傾向がある。

- ▶ 定数項

- ▶ -56.8928（符号は負）

- ▶ 誤差項の標準誤差

- ▶ 171.1286

- ▶ 決定係数

- ▶ $R^2 = 0.060744$.

- ➡ 「年収」の動きの約6.1%を「修学年数」の動きで説明できている。

今日のキーワード

回帰する, 回帰モデル, 線形回帰モデル, 単回帰モデル, 被説明変数, 説明変数, 回帰係数, 定数項, 誤差項, 残差, 通常 of 最小二乗法 (OLS), OLS 推定量, OLS 推定値, レベル, 標準誤差, 決定係数

次回までの準備

- ▶ 今回の講義スライドを読み直す.
- ▶ 「提出課題 2」に取り組む.
- ▶ 教科書第 5 章第 3 節, 第 5 節を読む.

付録：「(定数項を含む) 単回帰モデル」 の OLS 推定量の導出

残差二乗和最小化問題は,

$$\min_{(\hat{\beta}_0, \hat{\beta}_1) \in \mathbb{R}^2} \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)^2.$$

1 階条件は,

$$\begin{aligned}
& \frac{\partial \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)^2}{\partial \hat{\beta}_0} = 0 \\
& \Leftrightarrow \sum_{i=1}^n 2(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) \cdot (-1) = 0 \\
& \Leftrightarrow \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0, \tag{1}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
& \frac{\partial \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)^2}{\partial \hat{\beta}_1} = 0 \\
& \Leftrightarrow \sum_{i=1}^n 2(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) \cdot (-x_i) = 0 \\
& \Leftrightarrow \sum_{i=1}^n x_i (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0. \tag{2}
\end{aligned}$$

(1) より,

$$\begin{aligned}\sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) &= 0 \Leftrightarrow \sum_{i=1}^n y_i - \sum_{i=1}^n \hat{\beta}_0 - \sum_{i=1}^n \hat{\beta}_1 x_i = 0 \\&\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n y_i - n\hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n x_i = 0 \\&\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n y_i - \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n x_i = n\hat{\beta}_0 \\&\Leftrightarrow \hat{\beta}_0 = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i - \hat{\beta}_1 \cdot \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i.\end{aligned}$$

$$\bar{y} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i, \bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i$$

とすると, $\hat{\beta}_0$ は,

$$\hat{\beta}_0 = \bar{y} - \hat{\beta}_1 \bar{x}. \quad (1')$$

(2) と (1) より,

$$\sum_{i=1}^n x_i(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n x_i(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) - \underbrace{\bar{x} \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)}_{(1) \text{ より, } 0 \text{ となる}} = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n x_i(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) - \sum_{i=1}^n \bar{x}(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n \{x_i(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) - \bar{x}(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i)\} = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0.$$

(1') を代入すると,

$$\begin{aligned} & \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 x_i) = 0 \\ \Leftrightarrow & \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x}) \{y_i - (\bar{y} - \hat{\beta}_1 \bar{x}) - \hat{\beta}_1 x_i\} = 0 \\ \Leftrightarrow & \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y} + \hat{\beta}_1 \bar{x} - \hat{\beta}_1 x_i) = 0 \\ \Leftrightarrow & \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x}) \{y_i - \bar{y} - \hat{\beta}_1 (x_i - \bar{x})\} = 0 \end{aligned}$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n \{ (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) - (x_i - \bar{x})\hat{\beta}_1(x_i - \bar{x}) \} = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) - \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})\hat{\beta}_1(x_i - \bar{x}) = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) - \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 = 0$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) = \hat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2$$

$$\Leftrightarrow \hat{\beta}_1 = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}.$$